

尋常
小學
裁縫教科書

兒童用

全

裁縫
六六
號冊

43194

教科書文庫

4
920
32-1903
25980 09933

142

1909

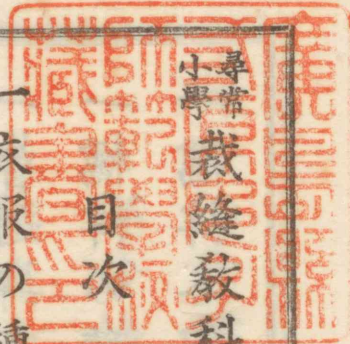


谷田部順子
小谷野千代子
合著

尋常
小學
裁縫教科書

東京
目黒書房
成美堂
合梓

尋常
裁縫教科書
兒童用全
號



尋常
小學

裁縫教科

醫館童用全号

目次

冊數

裁縫和

八

一 衣服の種類

一 裁縫用具の名稱

一 用具の用ひ方

一 器具の整へ方

一 針の持ち方及び運び方

一 運針

一 糸の結び方

一 糸の留め方

一 糸の継ぎ方

No.9933

一 一 二 五 七 九 九 二 四

一縫代及び著せの仕方 一六

一縫ひ合せ方 一七

一襪の掛け方 二一

一雑巾刺し方 二三

一紵け方 二五

一風呂敷縫ひ方 二八

一單衣前掛縫ひ方 二九

一普通綿布の名稱 二九

一普通綿布の丈及び幅 二九

一襦袢の種類 三一

一襦袢各部の名稱 三二

一一つ身襦袢

一 襦袢各部の名稱

三二

一 一つ身襦袢

三四

1 部分縫

三四

2 仕立上げ寸法

四一

3 標附け方

四二

4 縫ひ方順序

四四

5 畳み方

四四

一 車裁襦袢

四五

1 部分縫

四五

2 仕立上げ寸法

四九

3 標附け方

五〇

4 縫ひ方順序

五一

一 綿布繕ひ方

五一

1 接ぎ方

五一

2 繼ぎ方

五三

一 衣服整へ方

五五

一 裁縫材料

五五

一 縫製法

五五

一 縫製法

五五

一 縫製法

五五

一 縫製法

五五

一 縫製法

五五

目次終

尋常
小學
裁縫教科書
兒童用全

目次終

尋常小學校裁縫教科書兒童用全

谷田部順子 小谷野千代子 合著

衣服の種類

襦袢 單衣 袴 袷 綿入

帯 羽織袴

裁縫用具の名稱

針 針刺 鉸 指貫

糸卷 篋 鯨尺 紵臺

針箱

用具ツーグの用もちひ方かた

針はりには、長ながいのと、短みじかいのと、
太ふさいのと、細ほそいのとあつて、
長ながいのは、しつけをかけ、又
は、くけるときに用もちひ、短みじかい
のは、ぬふとときに用もちひます。
針はり刺さしは、針はりを、刺さすのに用もちひ
ます。

鋏はさみは、布ぬの、又は、糸いとを、きるとき
に用もちひます。

指ゆび貫ぬきは、右みぎ手ての中なか指ゆびにはめ、

それゆびに針はりのめどをあてて、

指貫は、右手の中指にはめ、

それに針のめどをあてて、
指のいたまぬよーにつか
ひます。

糸巻は、糸をまくのに用ひ
ます。

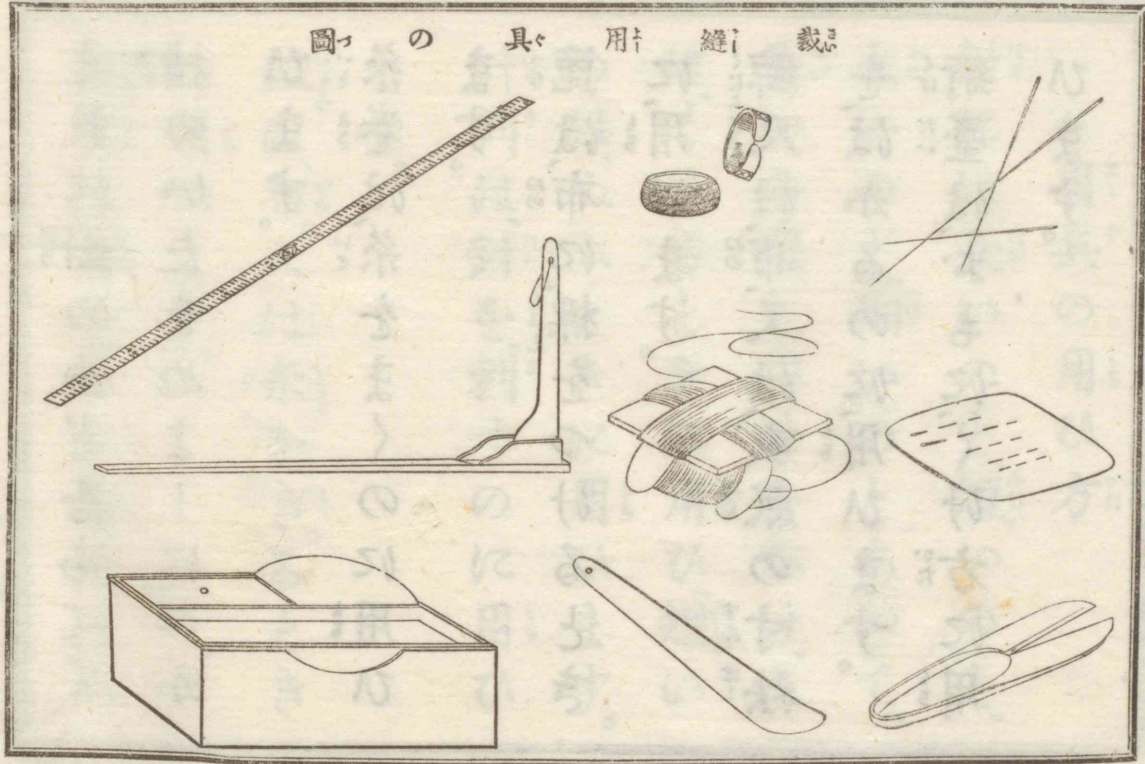
篋は、布に標をつけるとき
に用ひます。

鯨尺は、布又は衣服の寸法
をはかるのに用ひます。

紵臺は、おもにくけ方に用
ひます。

針箱は裁縫に用ふる小道具

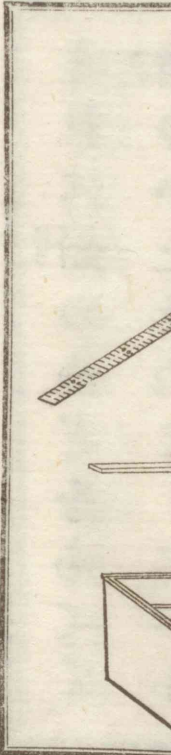
裁縫に用ふる具の圖



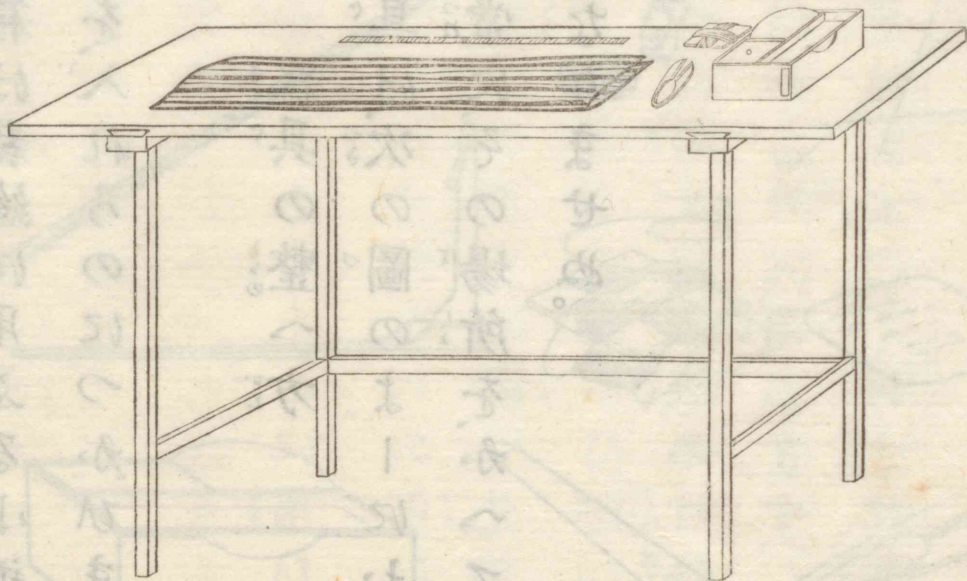
針箱は裁縫に用ふる小道
具を入れるのにつかひま
す。

器具の整へ方

器具は次の圖のよーにお
き、常にその場所をかへて
はなりませぬ。



た か べ ら な の 具 器



針はりの持もち方かた及おび運はこび

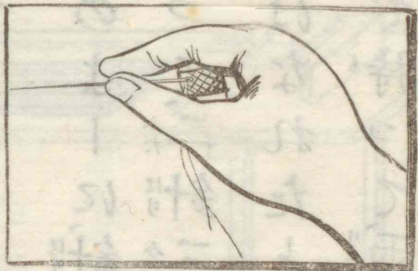
針はりの持もち方かた及および運はこび
方かた

右みぎ手ての拇おや指ゆびと、食ひさ指さしとで、針はり
のさゆきをつまみ、めどを指ゆび
貫ぬきにあてて、持もつのであり
ます。

前まへのよりに、針はりを持もち、布ぬのを
取とつて、二ふた針はり三み針はりぬひ、二三
寸はなれたところを、左ひだりの
手てで持もつて、兩りょう手てを、上あげ下さ
げして、左ひだりの方ほうへ、はこびま

針の姿勢の圖

す。



運針

えん
しん

ね

いた

運針うんしん

運針うんしんは、すべての縫ぬひ方かたに、
入用いりようでありますから、常つねに、
よく練習れんしゅうをなさい。

糸いとの結び方むすかた

糸いとの結び方むすかたに、三通とほりあり

ます。

一、とめむすびは、布ぬのを縫ぬ

二、ひ始はじむる時ときに、用もちふるも

ので、糸いとの端はしを、食指くわしゆびにま

き、拇指おやゆびの腹はらにてひねり



ながら、かたくひきしめ
ます。

二、こまむすびは、縫留を、

丈夫じよぶにするときに、用もちふ

るもので、糸いとの兩端りよを取と

つて、むすびあはせませす。

三、はたむすびは、糸いとを、つ

なぎあは合あせるときに、用もちふ

るもので、糸いとの兩端りよをと

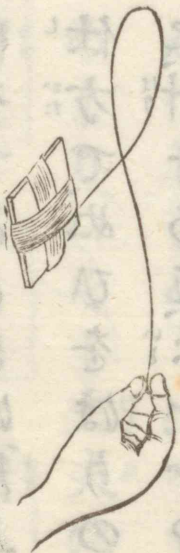
り、右みぎを下したに、左ひだりを上うへにし

て、左手ひだりての食指ひさしゆびの上うへにお

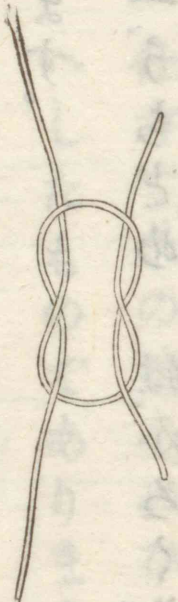
むすびあはせませす

て、左手の食指の上にお
ひたりて
のさしゆび
うへ

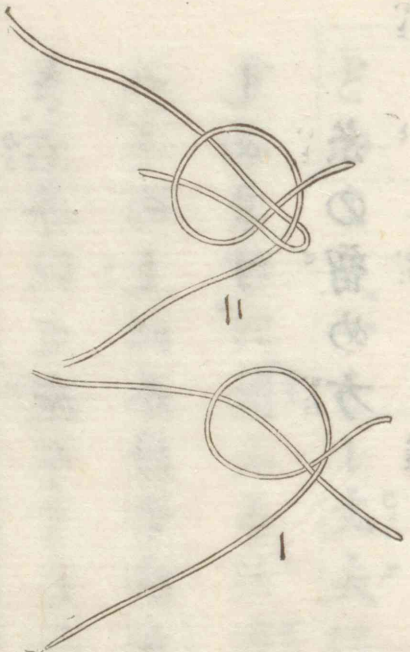
びすむめと



びすむまこ



びすむたは



き、右手みぎてにて環わをこしらへ、その上うへにかけてひきしめます。

糸いとの留とめ方かた

糸いとの留とめ方かたに、三通とほりあります。

一、うちどめ は、かるく糸いと留とめをするときに、用もちふる仕方かたで、ぬひをはりの處ところに、針はりをあて、糸いとを一つからみて、引ひきぬいてしめ

ます。

らみて、引きぬいてしめ

ます。

二、かへしどめは、うちど

めより、一そ一丈夫じよぶに糸

留どめをするときに、用もちふる

仕方しかたで、糸いとの端はしを、ぬひか

へしたものであります

三、すくひどめは、かへし

どめより、一そ一丈夫じよぶに

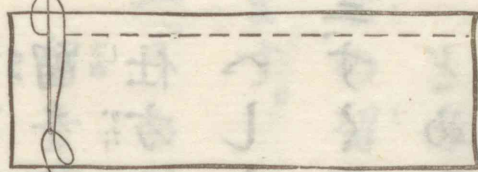
するときに、用もちふる仕方しかた

で、ぬひをはりを、ごく小ちひ

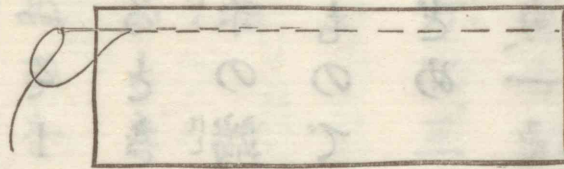
さく圖づのよ一にすくひ、

それからうちどめの通りこほに糸いとをからみて引きしめます。

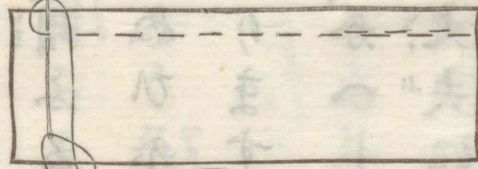
めどちう



めどしへか



めどひくす



糸いとのいと繼つぎ方かたに二ふた通とほりあり

ます。

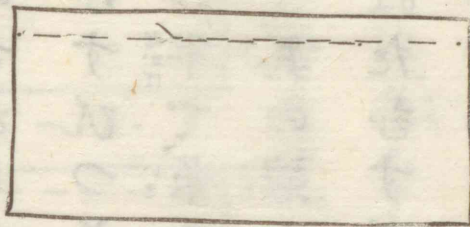
糸いとのつ継つぎ方かたに、二とほ通りあり

ます。

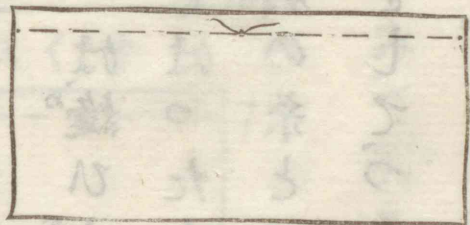
一、かさねつぎは縫ぬひ方かた
の半なかばで、糸いとのをはつたと
き、別べつの糸いとで、一て二まへ寸手前てまへ
から、縫ぬひかさねて、ゆく
のであります。

二、むすびつぎは縫ぬひ方かた
の半なかばで、糸いとのをはつたと
き、其その端はしと、別べつの糸いととで、
はたむすびをして、つぐ
のであります。

ぎつねさか



ぎつびすむ



縫代ぬひしろ及および著せきの仕方しかた
 縫代ぬひしろとは、縫ひ物ものをなすと
 き、布ぬのの縫ひ込こみとなると
 ころで、並なみの縫代ぬひしろは、二分五
 厘りであります。

著せきとは、縫ひ線ぬひすじの五厘程ほど
 下したの處ところを、所ところりかへすの

厘であります。

著せとは、縫ひ線の、五厘程
下の處を、折りかへすのを
いひます。

縫ひ合せ方

縫ひ合せには、五通りあり

ます。

一、合せ縫ひは、圖のよゝに、

布と布とを、合せて縫ひ

ます。

二、伏せ縫ひは、合せ縫ひをな

したる處に、著せをかけ

て折をりかへし、其その上うへを、
三分程ほどの針目はりめにて、圖づの
よゝに縫ぬひます。

三、折をり伏ふせ縫ぬひは、圖づのよ
ゝに、手前てまへの布ぬのを、一分ひ
きて合あせ縫ぬひをなし、向むかう
の布ぬのを、一分折をりかへし
てから、前まへの通とほり、伏ふせ縫ぬひ
をします。

四、袋縫ふくろぬいは、はじめ表おもてより、
一分の縫ぬひ代しろで縫ぬひ次つぎに、

裏うらをかへして、縫ぬひ代しろの通とほ

りて縫ぬひます。

一分の縫代で縫ひ次に

裏をかへして縫代の通

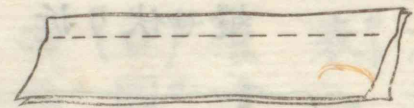
りに縫ひます。

五重ね縫は布と布とを

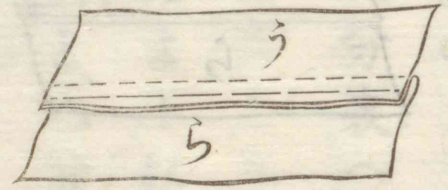
一分五厘づゝ重ねて其

の真中をぬひます。

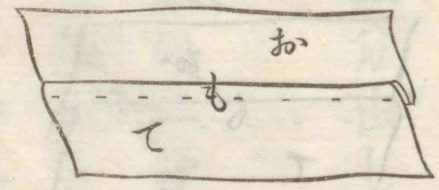
縫せ合



縫せ伏

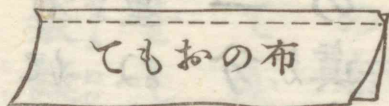


縫せ伏

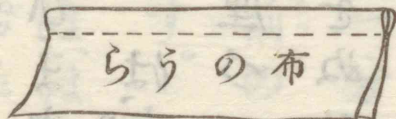


躰しつけ
の掛かけ方かた

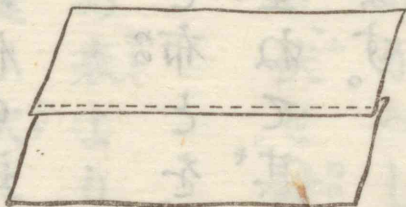
縫袋



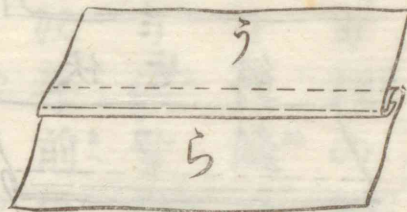
縫袋



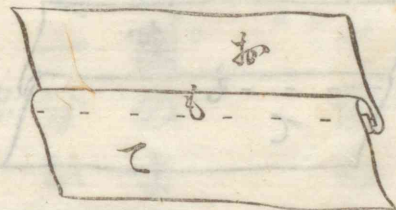
縫ね重



縫せ伏り折



縫せ伏り折



躰しつけの掛かけ方かた

一 ひらじつけには、二通ごほり
あります。

(イ) 地ぢの厚あつき布ぬの又は布ぬのを
合あはせたる處ところに、かかける仕し

方かたで、圖づのよよに針はり目めを、

表おもてへ八分裏うらへ五分出だし

ます。

(ロ) 圖づのよよに表おもてに、二分

の雌め針はりと、八分の雄を針はりと

を出だし、裏うらは、二分づつ二

度^どすくつてかけます。

二かくしじつけのは^つ圖^づの

よ^いに^{おもて}表^{おもて}に^{ちい}小^{ちい}さく^{ほりめ}針^{ほりめ}目^め

を^だ出^だし^{うら}裏^{うら}を^{ぐらゐ}五^{ぐらゐ}六^{ぐらゐ}分^{ぐらゐ}位^{ぐらゐ}に

すくひます。

けつじらひ (イ)

て も お

けつじらひ

ら う

けつじらひ (ロ)

て も お

(ロ)

か

か

か

か

けつじらひ (回)

ら う

けつじしくか

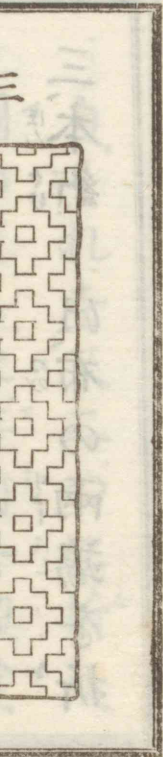
てもお

けつじしくか

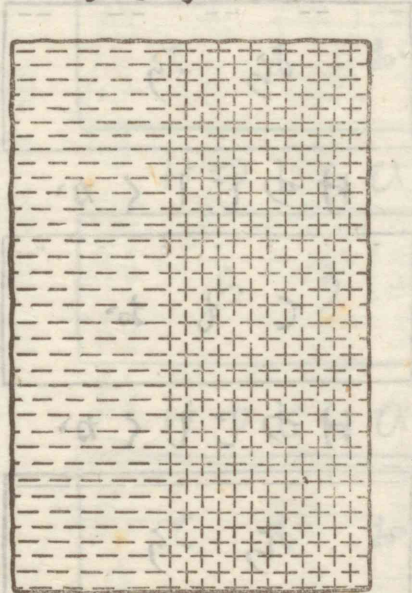
ら う

雑巾刺し方

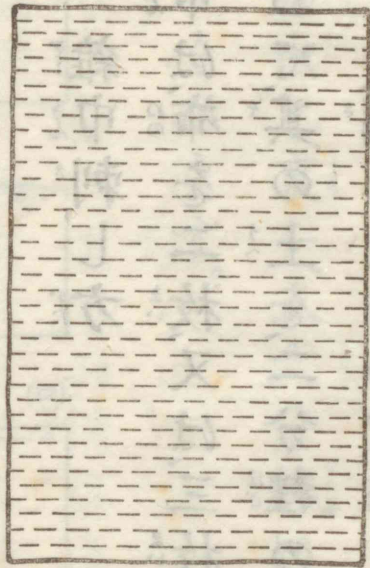
雑巾は布を二枚又は三枚重ねて、其の上を二分程の針目で刺したものであります。刺し方にはいろいろあり



しざ字の十

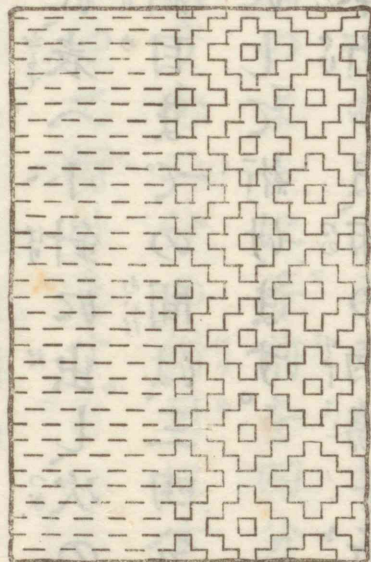


しざらひ



次つぎの三通さほりでありませす。
まますが普ふ通つうに用もちふるのは、

三だびんし



縮け方

縮け方には三通りありま

す。

一耳縮のは布の耳を裏へ

折るかへし耳ぎはより

五厘程内を圖のよりに

一、小針こばりに、裏うらへ二針にばり、表おもてへ一針はり、細こまかに出だし、次つぎの針目はりめまでの間あいだは、七八分しちぱんにし、てく絎くけます。

二、三つ折をり絎ぐけは、布ぬのの端はしを五分程ほごに折をり、其その内うち二分ふたぶんを折をり、こみ、圖づのよー

に、表おもてへ小針こばりに出だし、次つぎの針目はりめまでの間あいだは、三四分さんしよぶんにして、絎くけます。

三、本絎ほんぐけは、布ぬのの兩端りょうはしを折を

り、それを又二つに折をり、

三本紵ほんぶ

は布のの兩端りすはしを折を

り、それを又二つに折なり、
圖づのよゝに、手前てまへを四分
向むかうを二分の針目はりめに、す
くつて紵くけます。

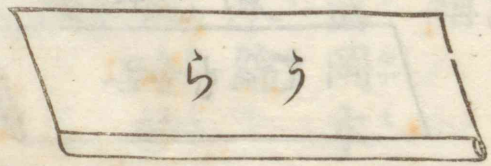
紵 耳



紵 耳



紵り折つ三



します。

單衣前掛縫ひ方

前掛を縫ふには布の下の

端を三つ折紵とし上の端

に表から紐を縫ひつけ次

に裏を見て本紵にします。

普通綿布の名稱

生木綿並晒木綿真岡木

綿木綿縮雙子木綿

瓦斯糸織金巾寒冷紗

縞飛白形附絞

普通綿布の丈及び幅

普通ふつに用もちふる綿布めんぷ一反たんの
 長ながさは、二丈八尺でありま
 すが、中には、二丈六尺から
 二丈九尺位ぐらゐのもあります。
 綿布めんぷの並幅なみはらは、大おほかた九寸
 であります。が、中には、八寸
 五分から九寸五分位ぐらゐのも
 あります。
 金巾かなきんや、寒冷紗かんれいしゃの幅はらは、二尺
 のと、二尺四寸のと、三尺の
 とあります。

襦袢じゆばんの種しゆ類るい

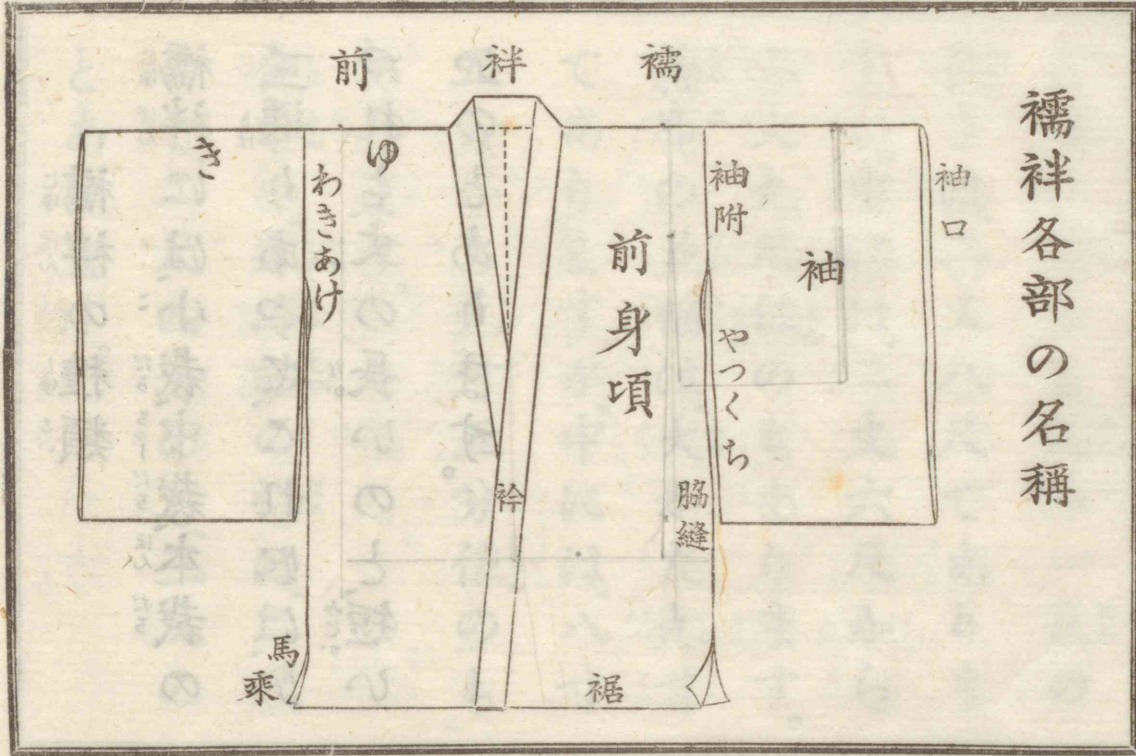
じゆばん
 だちちゆーだちほんだち
 だち

とあります。

襦袢の種類

襦袢には、小裁、中裁、本裁の
三通りあって、これには、い
づれも、丈の長いのと、短い
いのとあります。

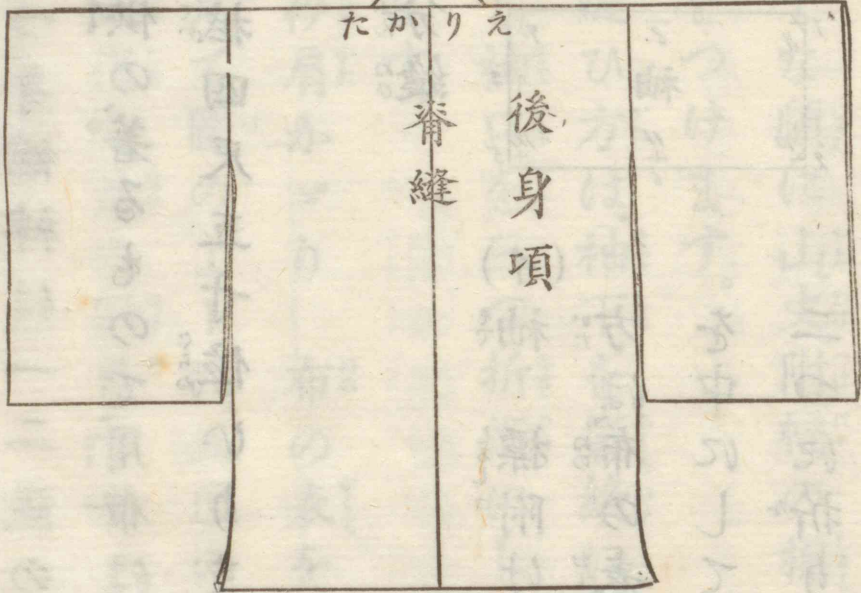
襦袢各部の名稱



後 裱 襦

たかりえ

後身頃
脊縫



一つ身襦袢

一つ身襦袢は、一二歳の
子供の著るもので、用布は、
大抵四尺五寸位いりま
す。

部分縫



(イ)

袖標附け
方は、布の表
を中にして
二つに折り、
折り目を左に、裁ち目を

向うにしておき、圖のよ

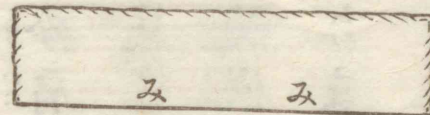
折り目を左に裁ち目を

向うむかひにしておき、圖づのよ
しな順じゆんに山丈やまたけ附幅つけばらの標しるし
をつけます。

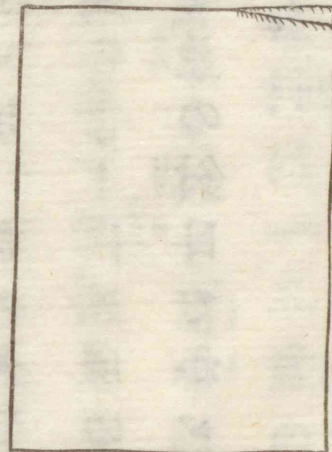
縫ぬいひ方かたは、袖下そでしたを袋縫ふくろぬいに
し、袖口そでぐちを三つ折をりぐけ紵ぬいにし
ます。

(口) 衿肩えりびたかぶり 布ぬのの表おもてを
見みて圖づのよしに、五厘ごりんの
縫代ぬいしろで、並なみの針目はりめでか
ります。

たかりがか



りがかたかりえ



(ハ)

身頃みごろ

身頃みごろ

標附しるしつ

方かた

は布ぬのの表おもてを中なにして二

つに折をり折をり目めを左ひだりに

衿肩えりかたをて手前まへにしておき

第一だい圖ずの順じゆんに山丈やまたけ附身つけみ

八はちつ口馬くちま乘のり後幅うしろはの標しるしを

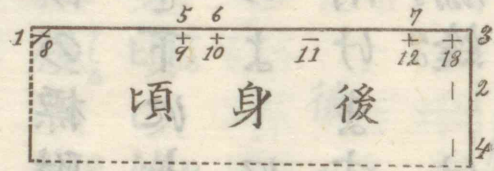
つけ次つぎに後身頃うしろみを左ひだりに

ひら
だい
つ

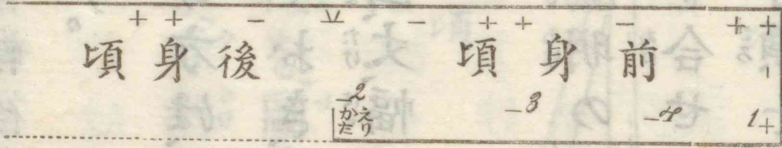
八つ口馬乗後幅の標を

つけ次に後身頃を左に
 開いて第二圖のよりに

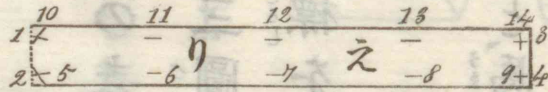
第一圖



第二圖



第三圖



前身頃まへみごころに前幅まへばた、衿附えりつけの標しるしを附つけます。

衿の標附け方は、布の表を下にしておき、第三圖だいづのよりに、山丈幅やまたけばたの標しるしを附つけます。

脇縫わきのひは、脇明わきあけの標しるしと、馬うま乗のりの標しるしとを合あせて、待針まちばりを打うち、前身頃まへみごころを見みて合あせ縫ぬいをなし、始めはじめ終りはは抄すくひ留どめとします。次に、並なみ

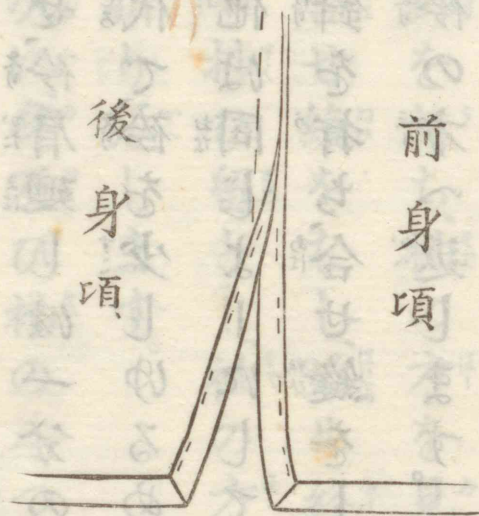
の著きせにて、手前まへの方ほうへ

抄すくひ留どめとします。次つぎに、並なみ

の著きせにて、手前てまへの方ほうへ
折をり返かへし、馬乗うまのりの處ところは、後うしろ

前身頃

後身頃



身頃みごろの縫代ぬひしろを、圖づのよ
に後うしろへ開ひらき、耳紵みみぐけをし
す。
裾掛すそかけは、四分位よねぶんの針目はりめで、

三つ折^{なり}紵^{ぐけ}をします。
 衿^{えり}の附^つけ方^{かた}は、衿^{えり}の山^{やま}
 にあたる^せところと脊^{すじ}線^{せん}
 にあたる^{あは}ところとを合^{あは}
 せ、衿^{えり}肩^{かた}廻^{まは}しは一分^{わひ}の縫^{ぬい}
 代^{しろ}で、衿^{えり}を少^{すこ}しゆるめに、
 他^たは同^{おな}じよりにして、待^{まち}
 針^{はり}を打^うち、合^{あは}せ縫^{ぬい}をして
 衿^{えり}の方^{ほう}へ返^{かへ}します。
 次^{つぎ}に、衿^{えり}先^{さき}を縫^{ぬい}ひ、裏^{うら}にか
 へして、本^{ほん}紵^{ぐけ}をします。

袖^{そで}の附^つけ方^{かた}は、袖^{そで}と身^み

へして、本紵ほんぐけをします。

袖そでの附つけ方かたは、袖そでと身み

頃ころとの山標やまじろしを合あせて待まち

針はりを打うち、袖そでの方ほうを見みて、

合あせ縫ぬいをなし、始はじめ終おり

を抄すくひ留とどめとし、袖そでの方ほうへ

折をり返かへします。

次つぎに、身み及および袖そでの八やつ口

を、折をりて耳紵みみぐけをします。

仕し立たて上あげ寸法すんぽう

袖丈そでたけ五寸五分

袖幅そでばた四寸

袖そで附つけ三寸五分

身み丈たけ一尺

後幅うしろはいっばい

前幅まへはいっばい

身み八つ口二寸五分

馬うま乘のり一寸五分

衿えり肩かた明あき八分

衿幅えりは七分

標しるし附つけ方かた

第一の袖そで

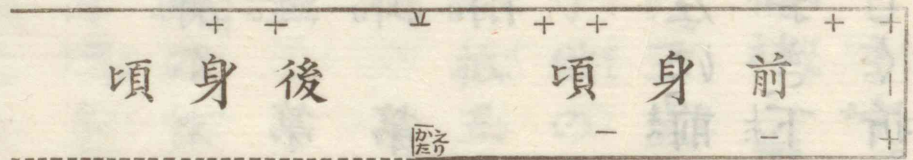
第二の身頃みころ

第三の衿えり

第二 袖身頃

第三

襟えり



後身頃

前身頃



縫ぬひ方かた順序じゆんじよ

第一そで袖

第二えり衿かた肩かがり

第三わき脇わ縫ぬ 第四うま馬ま乘のり

第五すそ裾が掛け 第六えり衿かた附つけ

第七そで袖つけ附

疊たみ方かた

衿えり肩かたを左ひだりに前まへ身み頃ころを上あ

にをしておをき下した前まへの脇わき縫ぬ

より正ただしく折をり重かさね次つぎ

に左さ右みぎの袖そでを袖そで附つけより

折をり後のち袖そでの下したより裾すそを

に、左右の袖を袖附より

折り、後袖の下より裾を
折り返します。

車裁襦袢（袖を省く）

車裁襦袢は、三歳より六歳
位までの子供の著るもの
で、用布は大抵五尺四寸位
いります。

部分縫

(イ) 脇縫割躰の仕方 標附
け方は、身頃を一つ身襦
袢の通りにおき、山丈脇

明馬乗後幅の標をつけ

次に後身頃を

左に開き圖の

よーに、衿下前

幅、衿附の標を

つけます。

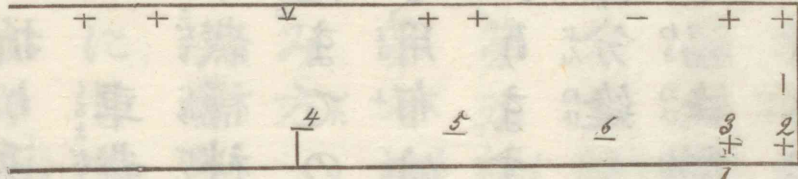
縫ひ方は標を

合せて待針を

打ち、一つ身襦

袷の通り脇縫

をなして折をつけ次に



後身頃の縫ひ込みを縫

をなして折をつけ、次に

後身頃うしろみの縫ぬいひ込みを縫ぬい
線すじより、一分五厘上を後うしろ
身頃みごろへ折をりかへし、前身まへみ
頃ごろを見て、手前てまへを五六分
の針目はりめに、向むかうを細こまかに
すくつて縫ぬいひます。

次つぎに脇わきの縫ぬいひこみ、及び、
馬乗うまのりを耳みみ紵ぐけにします。

(口) 衿下えりした紵くけ方かた は標しるしの通とほ
りに折をりて、衿附えりつけの標しるしよ
り、二針はり上まで、三つ折をり紵ぐけ

にします。

(ハ)

衿えり附つけ方かた

は、先まづ衿えりに、

丈幅たけはらともに、縫代ぬひしろの標しるしを

つけ、此この標しるしと、身頃みごろの衿えり

下したの標しるしとを合あせて、待針まちばり

を打うち、一ひとつ身襦袢みじゆばんの通まほ

りに縫ぬひ、圖づのよよに、衿えり

附つの始はじめ終をりは、身頃みごろの

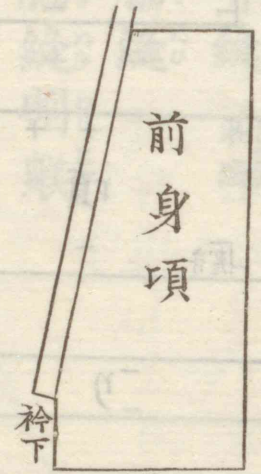
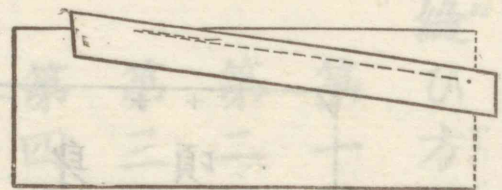
縫代ぬひしろをここく浅あく、細こまかに

縫ぬってすすくひとめをし

ます。



ます。
頭の
心
が
大
き
い



仕立^{し たて}上げ^{あ げ}寸法^{すんぽう}

身丈^{み たけ}一尺三寸

後幅^{うしろはら}五寸五分

前幅^{まえはら}いっぱい

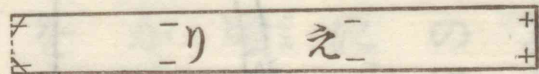
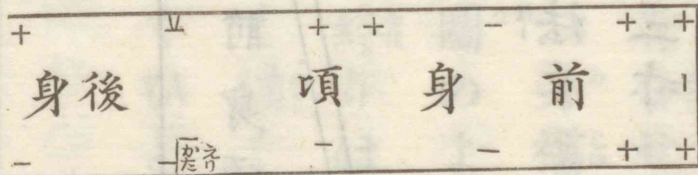
脇明^{わきあけ}六寸五分

馬乘^{うまのり}二寸

えり かたあき 衿肩明一寸一分
 えり した 衿下二寸
 えり はら 衿幅一寸

しるしつ 標附け方

第一身頃 みごころ
 第二衿 えり



縫ひ方順序 わたじゆんじゆ

十 身後

縫ぬひ方かた順序じゆんじよ

第一せ脊縫ねひ
(袋縫ふくろぬい)

第二わき脇縫ねひ

第三わき脇縫ねひ割わり躰じつけ

第四うま馬乘のり 第五えり衿下した

第六すそ裾掛がけ 第七えり衿附つけ

綿布めんぶ繕つくろひ方かた

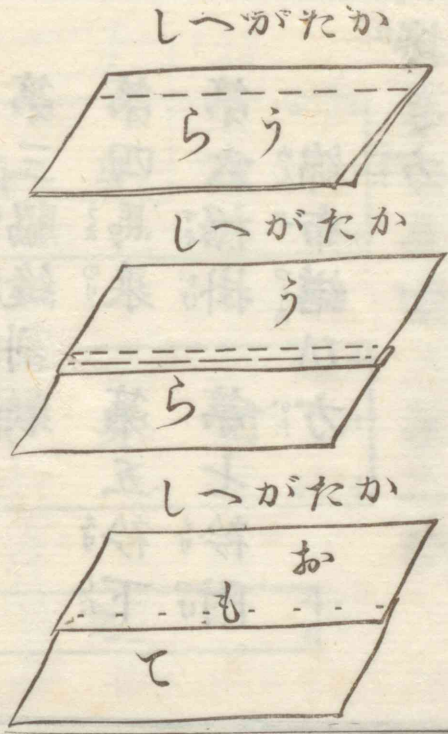
接はぎ方かた

接はぎ方かたに二通とほりあります。

(イ)片返かたがへしは接はぐべき布ぬの

の縞目しまめを合あせて圖づのよ

一に、小針こばりに縫ぬひ、一方ほうに折をり返ひして、躰しっけをかけま
す。



(口) 割わり接はぎ は、片かた返がへしより、

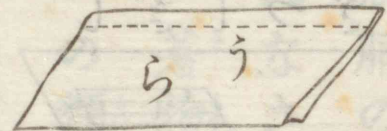
針はり目めをこまかにはぎ、縫ぬひ
代しろを、兩方りょうほうにひらきて、躰しっけ

をかけます。

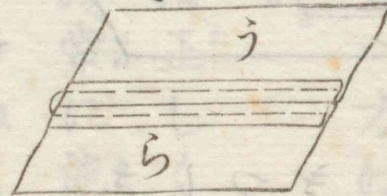
代しろをりよ兩方ほうにひらきて、躰しつけ

をかけます。

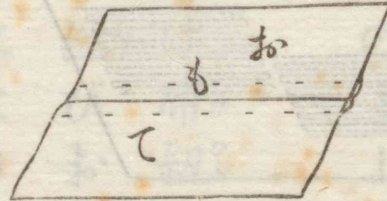
ぎはりわ



ぎはりわ



ぎはりわ



繼つぎ方だ

繼つぎ方だに、二通さほりあります。

(イ) しきしつぎは、布ぬのの損そん

所しよよりも、少すこし大おほきい切きれ

をあてて、圖づのよゝに、雌め

針雄針ばりにつぎます。

(ロ) さしつきは、布ぬいのいた

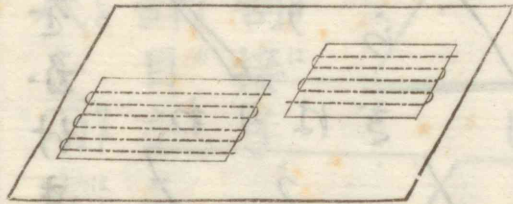
み方かた少なく地ぢのうすく

なつたとき、切きをあてず

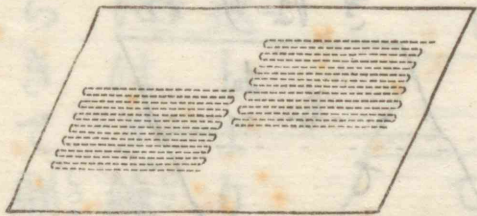
に、圖づのよゝに、こまかに

さします。

しきしつき



さしつき



衣服整へ方いふくさとのかた



衣服整へ方いふくさうのひた

衣服の整へ方は、次のよゝ
になさい。

一 著物は、正しく著け、帯紐
の類は、常に能く結びお
きて、とけぬよゝになさ
い。

二 破れ、ほころび等は、直に、
縫ひ繕ひ、又、汚れたると
きは、早く洗ひおとすよ
ゝになさい。

三衣服いふくを著きかへたるとき
 は、少すこしの間あいたほ干して後のちてい、丁
 寧れいに疊たぐみて、しわになら
 ぬよーに片かた附つけなさい。

尋常裁縫教科書兒童用終

明治三十六年三月八日印
 明治三十六年三月十二日發

行副

尋常裁縫教科書

尋常
小學
裁縫
教科書
兒童用終

明治三十六年三月八日印刷
 明治三十六年三月十二日發行
 明治三十六年九月一日訂正印刷
 明治三十六年九月四日再版發行
 明治四十一年五月二十日五版發行
 明治四十二年三月十八日六版發行

尋常
小學
裁縫教科書
定價金拾三錢

著作者 谷田部順

著作者 小谷野千代

發行者 目黑甚七

發行者兼印刷者 河出靜一郎

印刷所 三協印刷株式會社

明治三十六年九月二十二日
 文部省檢定
 不許複製

發行所

東京市京橋區南傷馬町二丁目
 目黑書店
 (電話本局二一六三番)
 東京市日本橋區通三丁目
 成美堂書店
 (電話本局二七七七番)



